

学校名	新座市立新堀小学校
実施日	令和5年1月19日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、学力向上プランに基づいた授業改善を推進するとともに、校内研修をととして、全ての教科で豊かな表現力を培う授業づくりに努めている。	A	3年間の研究の一年目として、豊かな表現力を高めることに視点をおいた授業を様々な教科で実践し、研究の方向性を明確にしようと努めている。指導者を招聘した校内研修の機会を設定し、さらなる授業改善に努めている。「豊かな表現力」の捉え方について、今後さらに具体的に共有する。	A	職員が研究に手応えを感じている。豊かな表現力の捉え方について、研究一年目の難しさはあったと思うが、保護者への説明や保護者の感じ方も大切に、今後も研究を深めてほしい。
2	学校は、業前や授業、家庭での学習等において、タブレット端末を活用した課題や活動を設定することととして、「個別最適な学び」と「共働的な学び」を一体的に充実させ、資質・能力を育成することに努めている。	A	タブレット端末を活用した授業がどの学級でも当たり前ものとなり、登校を自粛する児童が自宅で授業を受ける場合にも、授業を配信するだけでなく、教室にいる児童と協働的に学ぶことができるよう配慮している。今後は、タブレット端末を選択肢の一つとして、児童がより主体的に、より効果的に活用することができる授業改善を推進していく。	A	全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果からも、児童に確実に学力が付いていることがわかる。授業の様子から、どの学年、学級でもタブレット端末を活用した授業が行われていることがわかる。
3	学校は、授業や給食、清掃活動などの諸活動（健康管理や感染予防対策を含む）において、時間やきまりを守り、仲間と協力することのできる児童の育成に努めている。	A	多くの児童が時間やルールを守って生活することができている。児童会の児童が安全な廊下歩行を呼びかけたり、6年生の児童がうまく掃除できていない学年の手伝いに出向いたり、学校をよくするために児童が中心となって行動することができている。	A	ほとんどの児童が時間や決まりを守って活動することができおり、個の特性等からできていない児童については、個別に対応している。児童が主体的に協力しようとする取組はよいものである。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	一部の職員に負担が偏らないよう、分掌を組織している。継続して取り組むこと、新しい形に変えていくこと等、丁寧に引き継ぐ体制を整えるとともに、会議をより効率よく進める工夫を講じていく。	A	校務分掌や主任制が適切に機能している。コロナ禍の対応について、各主任にかかる負担についても配慮している。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	GoogleFormを活用して効率よく、効果的に実践を振り返り、課題の改善に生かしている。より焦点を絞って手立てを具体的にするなど、組織としての取り組みをより充実させ、経営方針の実現を目指す。	A	ICTを効果的に活用し、学校行事等の反省と改善を速やかに行っている。職員から寄せられた反省をクラウドで共有することができるようにし、すべての職員が自分事としてPDCAサイクルに参画できるようにしている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	校内研修で不審者対応訓練を実施し、共通理解のもと対応できるようにしている。不安な職員もいるため、定期的な確認や、危機管理マニュアルの見直しを丁寧に、緊急事態発生時に、全職員が落ち着いて、自身の役割に基づいて適切に対応できるよう備える。	B	避難訓練の実施回数を増やし、特に不審者対応訓練を充実させることで危機管理に努めて欲しい。不審者情報等に係る東京都(清瀬十小)との連携は今後も継続して欲しい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	学習規律や学習用具の約束は共通理解することができている。授業改善が推進されていることから、合わなくなっている約束について積極的に見直し、変えていく必要がある。	B	ルールの見直しについては、継続して検討して欲しい。代表委員会(児童会)が中心となって、必要なルールについて意見を出し合っていることはとてもよい。

8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	各教科等で表現力の向上を意識した授業づくりをしていることから、言語活動が充実していると言える。思考力・判断力・表現力の育成につながっているかを検証し、より効果的な言語活動を精選して設定する。	A	どの教科、領域等でも、言語活動を重視した授業が展開されている。児童は言語活動に集中して取り組むことができている。今後も継続して思考力・判断力・表現力の育成に努めて欲しい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	学習指導要領に基づいた指導案づくり、授業づくりが推進されている。各学年の目標と指導事項を明確にしなが、各学年の発達段階や実態に応じた指導を意識することができている。	A	学習指導要領や埼玉県の編成要領等を根拠とした授業づくりをすることができている。発達段階や学力、能力の実態に応じた指導を今後も継続して欲しい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実など、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	EETと連携し、目標と活動を明確にした外国語、外国語活動の授業を展開している。近隣のアメリカンスクールをパートナースクールとし、体験入学の受入やゲストティーチャーの依頼、見学ツアー等を実施した。今後、さらに連携を深め、国際理解教育を推進していく。	A	パートナースクールCAJと積極的に交流し、グローバル人材の育成に努めている。知識を暗記する活動よりもコミュニケーションを大切に活動を意図的に設定し、児童は生き生きと主体的に学ぶことができている。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	A	多くの児童が礼儀正しい態度や言葉遣いで生活することができている。来校者や地域の方とも気持ちよく挨拶できるよう交流の機会を設定したり、乱暴な言葉遣いの児童に丁寧な指導を継続したりして、豊かな心の育成を推進する。	A	場に応じた言葉遣いで気持ちのよいあいさつができる児童が多い。気分により乱暴な言葉遣いになってしまう児童については、職員が共通理解のもと個に応じた支援をすることができている。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合っ学校生活を送れるような環境を整備している。	A	多くの児童が思いやりをもって生活している。互いの個性や特性を認め、受け入れる雰囲気がある。職員は、学年や学級に関わらず指導にあたっている。いじめや意地悪があった際には解決に向けて迅速に具体的な指導を開始し、安心、安全な環境整備を推進する。	A	多くの児童が思いやりのある関係を築き、生活することができている。「多くの児童」に入らない児童の状況や支援の具体等について、不登校傾向にある児童を含め学校運営協議会で説明があるとよい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	指導する際には、落ち着いて丁寧に説明したり、繰り返し指導したりしている。教職員の言動が児童の模範となることを今後も十分に意識する。	A	指導する場面のみならず、普段から教職員は言動に気を付けて児童の範となるよう努めている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	季節に関わらず、休み時間に運動場で遊ぶ児童が多い。学級会や係活動と関連させてクラスレクを企画するなど、体を動かす楽しさを味わう機会を定期的に設定している。教職員も一緒に体を動かし、体力向上を意欲的に推進している。	A	季節にあった内容を保健だよりに掲載し、ホームページでも閲覧可能にするなど、工夫して取り組んでいる。寒い季節にも外遊びで体を動かすことを楽しむことのできる児童が多い。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	栄養教諭と連携した授業を計画的に実施しており、児童は食への興味関心を高めている。栄養教諭が給食指導に積極的に入ることで、食に関する授業の効果が高まっている。	A	栄養教諭が授業や給食指導に積極的に関わることで、児童の食に関する意識が高まっている。栄養教諭と連携した授業の内容について家庭とも共有し、実践や振り返りに協力を得て学びを深めている。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	年2回の保護者アンケートや公開授業の感想等で保護者の意見を把握し、教育活動に生かしている。コミセンやCAJ、シルバー人材ボランティア等地域の方との交流の機会を積極的に設け、学校と地域の連携による、双方の活性化を推進している。	A	公開授業や保護者が一緒に参加する授業を企画した際には、感想の提出を呼びかけ、保護者の立場から見た授業や児童の様子を把握している。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	ホームページの校長ブログで学校の様子を細やかに発信している。学校だより等の手紙やコミセンの学校紹介スペースを活用し、より多くの方に学校の様子を知ってもらうことができるよう努めている。	A	学校の方針や児童の様子を積極的に発信している。発信する内容について、保護者や町内会など、地域の意見を取り入れ工夫して欲しい。ビジュアルを重視した、気軽に見やすい内容に期待している。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	必要な時に、関われる方が主体的に参加することができるよう、学校応援団の在り方を見直し、学校行事や学校環境整備を進めることができている。今後、不審者対策など、不安のある内容について学校応援団組織をより効果的に活用していく。	A	負担軽減や活動の精選等の観点を踏まえ、学校応援団組織の在り方を工夫している。コロナ禍でも、行事の手伝いなど、ボランティアとして関わりたい保護者に協力を依頼することができている。